

文学に見る根釧地方の酪農村の前史

—早川三代治の「土と人」を通して考える—

釧路公立大学 鷹田 和喜三

1. 研究の課題と方法

本報告は第43回大会で報告した「北海道根釧開拓村落の形成と社会的性格」の継続研究である。昭和初期の入植者はどのように移住・開拓し、根釧地方の村落はどのようにして形成されたのだろうか。府県の伝統的農村や開拓年代の古い空知、十勝地方の農村に比較して、どのような社会的性格の相違が見られるか。農村社会学のキーワードである農村、村落、部落、いえ、むら、などの伝統的な定義は根釧地方の農村の実態に合致するのだろうか。これらの設問を大雑把であれ整理し、その社会的性格を把握することを前回の研究課題とした。本報告ではデータ不足と生硬な記述を補完・拡充するため、調査地の虹別原野を舞台とした早川三代治の長編小説「土と人」シリーズを研究資料に活用して、文学作品を通して根釧地方の酪農村の前史を考察することを課題とする。両稿をペアとして見ていただければ幸いである。

2. 調査地の概況

虹別は北海道川上郡標茶町の最北端に位置し、弟子屈町・別海町に隣接する、根釧地方を代表する大規模酪農地帯である。平成6年度では地区内の総世帯数は276戸、酪農家数は120戸、乳牛頭数は約9,900頭、農耕地面積は約5,500ヘクタールである。主要調査地の中虹別中央下部落の現住世帯は16戸で、酪農家は12戸（うち牛乳を生産しない農家は2戸）、非農家（教員3戸、会社員1戸）が在住する。酪農家の平均規模は乳牛約100頭（搾乳牛60頭）、所有地55ヘクタール（うち放牧地20h、牧草地30h）である。中虹別小学校、保育所、コミュニティーセンター、中虹別神社が所在し、地域（校区）全体で共同利用・維持されている。

3. 「土と人」シリーズの解説（略）

（以下は完成報告書のコピーを配布して報告するため、その内容目次のみを掲げる。）

4. 「土と人」の時代的背景

- (1) 釧路農業の特質と昭和初期の冷害
- (2) 昭和戦前期の北海道農業史の概要
- (3) 第2期拓殖計画と移民政策の特色
- (4) 現場指導者の根釧原野回想記
- (5) 虹別の酪農指導者の回想

5. 処女地の開拓と悲劇（喰いつめられた開拓移民、移住の夢と郷里の状況、不毛の処女地、移住の願望、市街地の妖気、凶作と借金、債鬼の群れ、出稼と決意、夜逃げ、転落）

6. おわりに